

交 通 事 故 概 況 等 に つ い て

北海道環境生活部くらし安全推進課
平成23年11月11日

◎ 交通死亡事故発生状況

1 総合振興局・振興局別交通死亡事故発生状況

(1) 平成23年中の発生状況（11月10日現在）

	空知	石狩	後志	胆振	日高	渡島	檜山	上川	留萌	宗谷	オホーツク	十勝	釧路	根室	全道計
死者数	14	33	8	15	5	9	0	24	5	4	16	13	11	2	159
前年比	-4	-11	-6	+4	+3	-2	±0	+6	+3	+1	-5	-7	+2	±0	-16

(2) 平成23年11月中の発生状況（11月1日～11月10日）

	空知	石狩	後志	胆振	日高	渡島	檜山	上川	留萌	宗谷	オホーツク	十勝	釧路	根室	全道計
死者数	1	1	0	1	0	0	0	1	1	0	1	0	0	1	7
前年比	+1	-1	±0	±0	±0	-1	±0	±0	+1	±0	+1	±0	-1	+1	+1

2 交通死亡事故の主な特徴（11月10日現在）

○ 平成23年中（1月～11月）の特徴

- ・ **車両単独、正面衝突による事故が多い**
類型別では、車両単独が39人（24.5%）で最も多く、次いで正面衝突が37人（23.3%）となっている。
- ・ **国道が多い**
道路別では、国道が70人（44.0%）で最も多く、次いで市町村道が44人（27.7%）となっている。
- ・ **前方不注意、操作不適による事故が多い**
違反別では、前方不注意が67人（42.1%）で最も多く、次いで操作不適が25人（15.7%）となっている。
- ・ **65歳以上の高齢者の死者が多い**
年齢別では、高齢者（65歳以上）の死者が82人（51.6%）で最も多くなっている。
- ・ **シートベルト非着用者が多い**
自動車乗車中の死者83人中、シートベルト非着用者は35人（42.2%）となっている。

3 主要都道府県の交通事故死者数（11月10日現在）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
平成23年 死者数 (前年比)	東京 190 (+15)	愛知 183 (+16)	埼玉 174 (+15)	大阪 174 (+11)	兵庫 164 (+11)	北海道 159 (-16)	千葉 143 (-5)	神奈川 142 (±0)	茨城 138 (-36)	静岡 131 (-7)

4 月別交通事故死者数（11月10日現在）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	10月末	11月	12月	言十
平成23年	9	13	12	5	6	15	21	25	18	28	152	(7)		159
平成22年	10	16	18	10	12	15	21	25	20	22	169	24	22	215
平成21年	12	7	11	16	15	14	28	22	22	27	174	22	22	218

5 過去5か年の冬の交通安全運動期間中（11/16～11/25）の交通事故死者数

	18年	19年	20年	21年	22年	合計	平均
死者数	9	12	11	11	11	54	10.8

平成23年

冬の交通安全運動

11月16日水～11月25日金

北海道実施要綱



運動の 重点

- 高齢者の交通事故防止
- 夕暮れ時と夜間の歩行中・自転車乗用中の交通事故防止
- 凍結路面等のスリップ事故の防止
- 交差点の交通事故防止
- 飲酒運転の根絶

【全道統一行動日】11月16日水 セーフティコール

主催

北海道、北海道警察、北海道教育委員会、札幌市、市町村、公益社団法人 北海道交通安全推進委員会
財団法人 北海道交通安全協会、社団法人 北海道安全運転管理者協会

ストップ・ザ・交通事故死

《めざせ 安全で安心な北海道》



運動の目的

交通安全を自らのことと捉え、交通ルールの遵守や思いやりのある交通マナーの実践が主体的に行われるよう、道民一人ひとりの交通安全意識の高揚を図る。

運動の進め方

道、道警察、市町村、関係機関・団体等は緊密に連携し、体系的かつ効果的な交通安全運動を展開するとともに、参加・体験・実践型の交通安全教育を推進する。

通年運動 7大セーフティキャンペーン

- 高齢者事故防止
- シートベルト全席着用
- 自転車走行・交差点通行マナーアップ
- スピードダウン
- デイ・ライト実践
- 飲酒運転根絶
- 居眠り運転防止



運動の重点

	高齢者の交通事故防止	夕暮れ時と夜間の歩行中・自転車乗用中の交通事故防止	凍結路面等のスリップ事故の防止	交差点の交通事故防止	飲酒運転の根絶	
運転者	高齢者を見かけたら、徐行するなど、思いやりのある運転をしよう。	夕暮れ時から夜間には、歩行者などの発見がしにくくなるので、交差点では徐行し、しっかり安全確認しよう。	路面状況が刻々と変化することを認識し、スピードを控えた運転をしよう。	交差点やその付近は、事故多発地帯であることを認識し、特に注意して運転しよう。	飲酒運転の危険性や責任の重大さをしっかりと認識し、飲酒運転を根絶しよう。	運転者は
家庭では	夕暮れ時や夜間に外出するときは、明るい服装と夜光反射材を着用しよう。	夜光反射材の効果について話し合い、身の回り品への反射材の活用に努めよう。	冬道の危険性や特徴について話し合うとともに、早めに冬タイヤに交換しよう。	交差点などにおける安全な歩行や走行について、家族みんなで話し合おう。	飲酒運転の危険性、飲酒運転による交通事故の悲惨さなどについて話し合い、家族ぐるみで飲酒運転を根絶しよう。	家庭では
学校等では	高齢者の安全な横断や通行等を手助けするよう指導しよう。	自転車の通行方法や夜間における前照灯の点灯など、自転車の正しい利用の仕方を身につけさせよう。	雪道、わだち、凍結路面などの危険について理解させ、安全な歩行について指導しよう。	交差点などにおける交通事故が多いことを認識させ、特に注意して歩行・横断するよう指導しよう。	飲酒運転の危険性や責任の重大さをしっかりと認識させよう。	学校等では
職場では	歩行中の高齢者の行動の周知を図り、高齢者を交通事故から守ろう。	デイ・ライト（昼間点灯）の実践を徹底しよう。	朝礼や会議等の機会を利用し、道路情報を共有するなど、安全運転を実践しよう。	交差点やその周辺を走行するときは、特に注意して走行するよう指導しよう。	企業の責任として、ハンドルキーパー運動を展開するなど、飲酒運転の根絶を徹底しよう。	職場では
地域では	交差点などで、高齢者を見かけたら声をかけ、安全な横断を手助けしよう。	夜光反射材の普及と着用の促進に努めよう。	冬道の危険な場所や交通量の多い交差点などで、スピードダウンやスリップ事故防止を呼びかけよう。	交差点やその周辺において交通事故防止を呼びかける街頭啓発を実施しよう。	酒類を提供する飲食店等では、運転者への酒類提供の禁止を呼びかけよう。	地域では

居眠り運転防止 ～ 2時間毎に休憩しよう ～

の～んびり いこうや 北海道